

科 目		必・選	担 当 教 員	学年・学科			単位数	授 業 形 態					
倫理 Ethics		必	重松正史	3 年生 環境都市工学科			1	半期 週 2 時間					
授業概要	人と人の関係（人と人の間＝人間）の多様なあり方を多面的に考察する。科学技術について、倫理的側面から考察する												
到達目標	1. 自分を規定している様々な関係（家族・民族など）について、自らの考えを記述できるようになる 2. 科学技術をめぐる倫理的問題を考え、自らの考えを記述できるようになる 3. 日本社会の特質について、自らの考えを記述できるようになる												
評価方法	定期試験（70%） 毎回の授業で提出してもらう課題（30%）												
教科書等	現代倫理（清水書院）、授業ごとにプリントを配付する												
内 容								学習・教育目標					
第 1 週	人と人をつなぐもの（お金や言葉）							A					
第 2 週	家族、親子関係から見る人間の特質							A					
第 3 週	親子関係と無意識							A					
第 4 週	日本の家族にはいかなる特徴があるか。日本の少子化問題							A					
第 5 週	大人になりたがらない日本人と「かわいい」文化							A					
第 6 週	現代社会と不安							A					
第 7 週	人間にとっての境界							A					
第 8 週	境界を侵される不安、境界をなくす喜び							A					
第 9 週	ボーダレス時代と民族対立							A					
第 1 0 週	生命科学の発達と倫理							A					
第 1 1 週	「情報爆発」の時代と人間							A					
第 1 2 週	最先端技術の軍事利用							A					
第 1 3 週	福島原発事故							A					
第 1 4 週	日本社会の特質、組織と責任							A					
第 1 5 週	「横並び」日本における倫理							A					
第 1 6 週													
第 1 7 週													
第 1 8 週													
第 1 9 週													
第 2 0 週													
第 2 1 週													
第 2 2 週													
第 2 3 週													
第 2 4 週													
第 2 5 週													
第 2 6 週													
第 2 7 週													
第 2 8 週													
第 2 9 週													
第 3 0 週													
(特記事項)			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
				○									

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

ガイダンス

いずれの課題についても、実際の事例を見ながら、できるだけ具体的に倫理問題を考える

第1－5週（家族と人の意識、無意識）

- ・ 家族関係を中心に人のあり方を考える
- ・ 人の「無意識」について考え、無意識を自覚化することの重要性を知る
- ・ 日本の家族の特質、日本の大人－子ども関係の特質を知る

第6－9週（現代社会における不安）

- ・ ボーダレス社会である現代社会の不安について、具体的事例から考える
- ・ 国境・家・服など我々にとっての「境界」の意義を考える
- ・ お祭りの事例などから、人々が持っている境界を超える意識について考える
- ・ 差別や排斥の意識がどこから生まれるのかを考える

第10－13週（科学技術と倫理）

- ・ 生命科学、情報技術、核技術など科学技術がどこまで到達しているのかを具体的に知る
- ・ 先端技術の利用の様々な実例や今後の利用可能性について知る
- ・ これらの先端技術が人間のあり方を根底から変えるかもしれないということについて考える
- ・ 福島原発事故について具体的に知る。原発事故の責任について考える

第14－15週（日本社会の特質と組織）

- ・ 様々な調査結果から、日本の社会、日本人の意識には大きな特徴があることを知る
- ・ 自分の意見を言わない日本人のあり方について考える
- ・ 組織の一員として「責任」をいかにとるべきなのかを具体的事例を通して考える